歯科衛生士学科　実務経験のある教員等による授業科目一覧

医療職業実践専門課程										
歯科衛生士学科										
科目			授業1単位＝15時間　実習1単位=30時間　臨地実習1単位=45時間							単位
			講義	実習	臨地実習	1年次	2年次	3年次	計	
分 基礎	人間と生活	心理学	○				30		30	2
		コミュニケーション論	○				30		30	2
小計						0	60	0	60	4
専門基礎分野	人体（歯・口腔を除く）の構造と機能	解剖学	○			30			30	2
		組織・発生学	○			30			30	2
		生理学	○			30			30	2
		生化学	○			30			30	2
	歯・口腔の構造と機能	口腔解剖	○			30			30	2
		歯牙解剖	○			30			30	2
		口腔組織学	○			30			30	2
	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	微生物学	○				30		30	2
		薬理学	○			30			30	2
		病理学	○				30		30	2
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	衛生・公衆衛生学	○	○		30			30	2
		衛生統計学	○			30			30	2
		口腔衛生学	○			30			30	2
		栄養学Ⅰ	○			30			30	2
		栄養学Ⅱ	○				30		30	2
		衛生行政・社会福祉	○				30		30	2
小計						360	120	0	480	32
専門分野	歯科衛生士概論	歯科衛生学総論	○			30			30	2
	臨床歯科医学	歯科臨床概論	○			30			30	2
		保存修復学	○			30			30	2
		歯・歯髄疾患論	○				30		30	2
		歯周療法学Ⅰ	○			30			30	2
		歯周療法学Ⅱ	○				30		30	2
		歯科補綴学	○				30		30	2
		口腔外科学	○			30			30	2
		小児歯科学	○			30			30	2
		歯科矯正学	○				30		30	2
		高齢者歯科学Ⅰ	○			30			30	2
		高齢者歯科学Ⅱ	○				30		30	2
	歯科予防処置論	歯科予防処置法Ⅰ	○	○		120			120	6
		歯科予防処置法Ⅱ	○	○			120		120	6
		歯科予防処置法Ⅲ	○					30	30	2
	歯科保健指導論	歯科保健指導Ⅰ	○	○		60			60	3
		歯科保健指導Ⅱ	○	○			60		60	3
		歯科保健指導Ⅲ	○					30	30	2
		栄養指導	○	○			30		30	2
	歯科診療補助論	歯科診療補助法Ⅰ	○	○		120			120	6
		歯科診療補助法Ⅱ	○	○			120		120	6
		歯科診療補助法Ⅲ	○					30	30	2
		歯科材料学	○			30			30	2
		臨床検査・救急蘇生法	○			30			30	2
小計						570	480	90	1140	66
択必修分	総合科目	看護学	○				30		30	2
		リハビリテーション論	○				30		30	2
		口腔機能・摂食機能訓練法	○				30		30	2
		医療保険事務	○			30			30	2
小計						30	90	0	120	8
合計						960	750	90	1800	110

成績の評価及び履修認定について

（授業科目履修の認定に係る学則）

第 23 条　授業科目の履修に関しては、授業時間数の 3 分の 2 以上出席し、試験に合格した者に、所定の単位を与える。ただし平素の学習状況又は論文等をもって試験に代えることができる。

2　試験の成績の評価は、秀、優、良、可又は不可とし、秀、優、良及び可を合格とする。

3　前項の秀は 90 点、優は 80 点、良は 70 点、可は 60 点割を基準とし、総合的な評価を行なう。

（GPA の導入について）

GPA（Grade Point Average）とは、履修した科目 1 単位あたりの成績平均点を算出する方法であり、GP に該当科目の単位数を乗じて合計し、総単位数で除して履修した科目 1 単位あたりの成績平均点を算出する。計算結果は小数点以下第 3 位を切り捨てして表記する。

1　成績評価の適切な取組の概要

成績評価については、「秀(90点)、優(80点)、良(70点)、可(60点)、不可」の 5 段階で評価し、可以上で合格となる。また，GP（Grade Point）としては、「秀は4.0、優は3.0、良は2.0、可は1.0、不可は0.0」とする。

GPA 算出式

$$\mathrm{GPA} = \frac{\text{（履修科目の単位数×ポイント）の合計}}{\text{履修した講義の総単位数}}$$

2．ＧＰＡの種類

GPA は年度ごとに算出したもの（年度GPA）、入学時から現在の学期まで通算したもの（累積GPA）があり、その計算方法は次のとおり。

①年度GPA

当該年度に履修し成績評価を受けた授業科目全体のGP 合計を当該年度の履修総単位数で除して算出する。

②累積GPA

入学時から現在の学期までに履修し成績評価を受けた授業科目全体のGP 合計を入学時

からの履修総単位数で除して算出する。

シラバス

授業科目区分	基礎分野	担当科目	人間と生活 心理学	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	宮﨑　栄理子			受講学科	歯科衛生士学科		
				学　年	2年		
実務家教員としての経歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の実務経験がある。 歯科診療所　勤務（4年）						
実務経験と授業	歯科衛生士の実務経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な人の行動と心理に関する基本的な知識を養う。						
学期区分	前期	月曜日　1時限		講義室等	普通教室②		
	後期			授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・良好な人間関係を構築するために、人の行動と心理に関する基本的な知識と考え方を習得する。	・平常点 ・確認テスト ・定期試験
授業概要	**教科書**
・人間性の理解を深め、患者に対し適切な心理的配慮を実践する力を身につける。	最新歯科衛生士教本　心理学 医歯薬出版株式会社
	参考書

履修上の注意事項	・理解度確認のため小テストを実施する。 ・授業態度、小テスト成績についても加味し、総合的に評価する。

授業の計画

〈前期〉

第1回	知覚成立の基礎と特徴、知覚に影響を与える要因
第2回	学習のプロセス、記憶のメカニズム
第3回	動機付けのメカニズムと種類
第4回	小児および障害児者の歯科治療で用いられる行動療法と歯科衛生士の役割
第5回	欲求とフラストレーション・葛藤との関連、人生や日常生活におけるストレッサー 【確認テスト①】
第6回	パーソナリティの特徴
第7回	知能の発達と経年的変化
第8回	思考、問題解決の方法
第9回	ライフサイクルの各段階におけるこころの発達の特徴、こころの発達に関わる要因 人生や日常生活における支援(乳幼児～児童期)
第10回	ライフサイクルの各段階におけるこころの発達の特徴、こころの発達に関わる要因 人生や日常生活における支援(青年期)
第11回	ライフサイクルの各段階におけるこころの発達の特徴、こころの発達に関わる要因 人生や日常生活における支援(成人期、高齢期)
第12回	集団の中の人間関係、対人関係に関わる心理的要因と行動 文化・慣習の違いによるコミュニケーションの在り方
第13回	こころの健康に対する支援、歯科医療におけるコミュニケーションの意義
第14回	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション、話し手と聞き手の役割
第15回	信頼関係の構築、傾聴姿勢・共感姿勢 【確認テスト②】 【国家試験過去問題】

シラバス

授業科目区分	専門基礎分野	担当科目	人間と生活 コミュニケーション論	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	宮﨑 栄理子			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	2年		
実務家教員としての経歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の実務経験がある。 歯科診療所　勤務（4年）						
実務経験と授業	・歯科衛生士の実務経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な知識とコミュニケーション技法を養う。						
学期区分	前期	木曜日　1、2時限(隔週)		講義室等	普通教室②		
	後期			授業形式	講義・演習		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・医療を提供する者として、より良いケアや支援を実現するために必要なコミュニケーション技法を身につける。	・出席状況 ・授業態度 ・単位認定試験
授業概要	**教科書**
・自信を持って実習に臨み、就職してからも生き生きと働き続けることを願い「ケアのプロセス」としてのコミュニケーション力を修得する。 ・対人関係を構築する力を養うために、感じる力・考える力を磨き、思いやりをもって表現する力を伸ばせるよう、ロールプレイングを取り入れる。	歯科スタッフのためのケア・コミュニケーション 株式会社 ウイネット **参考書**

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前期〉

第1回	1-1　医療・介護・保健におけるコミュニケーションを考える視点とその役割
第2回	1-1　コミュニケーションの目的とプロセス　ホスピタリティとケアコミュニケーション
第3回	2-1　好感・安心感を高めるためのコミュニケーション①(非言語メッセージ)
第4回	2-2　好感・安心感を高めるためのコミュニケーション②(言語メッセージと敬語)
第5回	3-1　相手を受容し、共感する
第6回	3-1　3.交流分析、4.相手と意見が違う場合のコミュニケーション(補足4-2　アサーティブなコミュニケーション)
第7回	3-1　苦情・クレーム対応のスキル
第8回	3-2　わかりやすく説明・提案し、同意を確認する
第9回	3-3　相手のやる気を引き出す
第10回	3-3　コーチング・コミュニケーションのステップと表現
第11回	※モチベーション　実践心理学
第12回	3-4　配慮ある支援が必要な被援助者とのコミュニケーションについて(補足5-3　終末期ケア)
第13回	4-1　チームの一員として仕事を進める
第14回	4-1　より良いチームワークのためのマナーとコミュニケーション
第15回	筆記試験

シラバス

授業科目区分	専門基礎分野	担当科目	人体(歯・口腔を除く)の構造と機能 解剖学	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	田中 利幸			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		
実務家教員としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。						
	歯科診療所　勤務(6年)						
	歯科診療所　開設(33年)						
実務経験と授業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な人体の構造と機能の知識を養う。						
学期区分	前期	金曜日　3時限		講義室等	普通教室①		
	後期			授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・人体の構造と機能を理解し、歯科医療に携わる歯科衛生士として必要な基礎学力をつけることを目標とする。	・筆記試験

授業概要	教科書
・毎回プレテストとして指定された項目について調べ学習を行う。 ・人体の構造と機能に関して、項目別の講義を行う。	最新歯科衛生士教本 解剖学・組織学・生理学 最新歯科衛生士教本 口腔解剖学・口腔組織学・口腔生理学
	参考書
	みえる人体 南江堂

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前期〉

第1回	解剖学概論
第2回	骨格系　(頭蓋骨、体幹骨)
第3回	骨格系　(上肢骨、下肢骨)
第4回	筋系　(体の各部位の筋系)
第5回	内蔵学　(消化器系、呼吸器系)
第6回	内蔵学　(生殖器、内分泌系)
第7回	脈管系　(血管系、心臓、動脈系)
第8回	脈管系　(静脈系、胎児の循環系、リンパ系、脾臓)
第9回	神経学　(神経系の構成、中枢神経)
第10回	神経学　(脳脊髄膜、脳の血管)
第11回	神経学　(末梢神経系、神経系の主な伝導路)
第12回	感覚器　(視覚器、平衡感覚器)
第13回	感覚器　(味覚器、嗅覚器)
第14回	感覚器　(外皮)
第15回	まとめ

シラバス

授業科目区分	専門基礎分野	担当科目	人体(歯・口腔を除く)の構造と機能 組織・発生学	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	中島 洋子			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		
実務家教員としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。 歯科大学　保存講座(歯内療法学講座)勤務(2年) 歯科診療所　勤務(30年)						
実務経験と授業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な人体の最小単位である細胞の構造や機能およびヒトの発生および口腔や歯の発生についての知識を養う。						
学期区分	前期	木曜日　2時限		講義室等	普通教室①		
	後期			授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・人体の最小単位である細胞の構造や機能、人体の正常組織についての理解、ヒトの発生および口腔や歯の発生についての理解を深め、学習する。	・出席率・授業態度 ・レポート(課題評価) ・試験成績
授業概要	**教科書**
・組織・発生に関する基本的知識を講義形式で学ぶ。 ・理解を深めるため、レポート提出を行う。	最新歯科衛生士教本 解剖学・組織学・生理学 最新歯科衛生士教本 口腔解剖学・口腔組織学・口腔生理学 医歯薬出版株式会社
	参考書
	みえる人体 南江堂

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前期〉

第1回	概論
第2回	細胞について
第3回	細胞内小器官
第4回	細胞の一生
第5回	細胞について(上皮組織)
第6回	細胞について(支持組織)
第7回	細胞について(筋組織・神経組織)
第8回	発生学(ヒトの発生について)
第9回	発生学(ヒトの発生、成長、発育)
第10回	発生学(胎児の成長、出産について)
第11回	発生学(顔面と口腔の発生)
第12回	発生学(歯の発生)
第13回	発生学(歯周組織の発生)
第14回	小テスト
第15回	まとめ

シラバス

授業科目区分	専門基礎分野	担当科目	人体(歯・口腔を除く)の構造と機能 生理学	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	小嶋 勤			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		

実務家教員としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。
	歯科大学 歯科矯正学講座 勤務(6年)
	歯科診療所(矯正)勤務(2年)
	歯科診療所(矯正)開設(20年)
	日本矯正歯科学会 認定医
実務経験と授業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な生体機能・口腔の諸機能の知識とそれを説明する能力を養う。

学期区分	前期	水曜日 1時限	講義室等	普通教室①
	後期		授業形式	講義

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・講義形式良質な歯科医療を提供するため、生体機能の基本原則をふまえた上個々の生体機能・口腔の諸機能を他の科目で得られる知識と関連付けて理解一般の人にわかりやすく説明できる能力を修得する。	・定期試験 ・出席状況 ・態度
授業概要	教科書
・人体の生命維持に重要な器官系を取り上げ、その構造と機能を習得し、個々の器官系間での連携を総合的に理解できるよう解説する。 ・口腔生理学では口腔内機能が生命活動と深く結びついていることを示し、口腔を示し、口腔機能の重要性を解説する。	最新歯科衛生士教本 解剖学・組織学・生理学 最新歯科衛生士教本 口腔解剖学・口腔組織学・口腔生理学
	参考書
	みえる人体 南江堂

履修上の注意事項	・生理学、口腔生理学を合わせ、成績評価を行う。

授業の計画

〈前期〉

第1回	生理学 Ⅰ編 1章 細胞
第2回	生理学 Ⅱ編 4章 血液 循環
第3回	生理学 Ⅱ編 6章 呼吸
第4回	生理学 Ⅱ編 2章 筋、5章 神経
第5回	生理学 Ⅱ編 7章 感覚
第6回	生理学 Ⅱ編 3章 消化と吸収
第7回	生理学 Ⅱ編 8章 排泄、9章 体温
第8回	生理学 Ⅱ編 10章 内分泌、11章 生殖
第9回	生理学 中間試験
第10回	口腔生理学 Ⅱ編 3章 歯と歯周組織の生理
第11回	口腔生理学 Ⅰ編 5章 咬合と咀嚼
第12回	口腔生理学 Ⅰ編 6章 吸引 嚥下 口呼吸 口臭
第13回	口腔生理学 Ⅰ編 3章、4章 歯と口腔の感覚
第14回	口腔生理学 Ⅰ編 8章 唾液
第15回	口腔生理学 Ⅰ編 7章 発声

シラバス

授業科目 区分	専門基礎分野	担当科目	人体(歯・口腔を除く)の構造と機能 生化学	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	安齋 理江			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		
実務家教員としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。 大学歯学部 勤務(2年) 歯科診療所 開業(30年)						
実務経験と授業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な生体を構成している物質についての知識を養う。						
学期区分	前期			講義室等	普通教室①		
	後期	水曜日 2時限		授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・生体を構成している物質について学ぶ。食品から摂取する栄養素の代謝過程を学び、生命現象との関わりを理解する。	・小テスト ・平常点 ・定期試験
授業概要	**教科書**
・人体の代謝と機能に関する基本的知識が修得できるよう講義を行う。 ・人体の生命現象を分子レベルの化学反応から理解するために、随時小テストを行う。	最新歯科衛生士教本 栄養と代謝 医歯薬出版株式会社
	参考書
	みえる人体 南江堂

履修上の注意事項	

授業の計画

〈後期〉

第1回	生体における化学反応	糖質の代謝	解糖 クエン酸回路
第2回	糖質の分類 〖小テスト〗	クエン酸回路	電子伝達系
第3回	β酸化 アミノ酸の分類		
第4回	必須アミノ酸 〖小テスト〗	タンパク質の分類	代謝
第5回	タンパク質の合成	ホメオスタシス	
第6回	性感染症について	血液のpH	血糖値について
第7回	日本の国柄、栄養の基礎、食生活とは		
第8回	現代の食生活の概要	食品成分表について	〖小テスト〗
第9回	国民健康・栄養調査	年末年始の行事食	
第10回	栄養素の吸収		
第11回	日本人の食事摂取基準		
第12回	脂肪エネルギー比率	基礎代謝、身体活動レベル	
第13回	食事摂取基準	各値の意味について	
第14回	ビタミンの働き	欠乏症	
第15回	無機質の働き		

シラバス

授業科目区分	専門基礎分野	担当科目	歯・口腔の構造と機能 口腔解剖	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	滝之入 洋			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		
実務家教員としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。						
	大学歯学部附属病院 歯科保存学講座 勤務(2年)						
	歯科診療所 勤務(2年)						
	歯科診療所 開設(24年)						
実務経験と授業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な歯および口腔を形成する諸器官の微細構造についての知識を養う。						
学期区分	前期	木曜日 1時限		講義室等	普通教室①		
	後期			授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・歯科衛生士として必要な歯および口腔を形成する諸器官の微細構造、顔面・口腔組織について理解する。	・筆記試験 ・小テスト
授業概要	**教科書**
・口腔を三次元的イメージで理解できるよう、口腔領域の骨、筋、脈管などを項目別に講義する。 ・知識の定着を図るため、随時復習テストを行う。	最新歯科衛生士教本 口腔解剖学・口腔組織学・口腔生理学 医歯薬出版株式会社
	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前期〉

第1回	口腔とは 口唇と頬 口腔前庭
第2回	固有口腔 口峡 舌
第3回	唾液腺 咽頭
第4回	頭蓋骨
第5回	上顎骨
第6回	口蓋骨
第7回	下顎骨 舌骨
第8回	顎関節
第9回	表情筋
第10回	舌骨上筋 咀嚼筋
第11回	口腔付近に分布する動脈（総頸動脈、外頸動脈）
第12回	口腔付近に分布する静脈（内頸静脈、頭頸部の動脈と静脈の差異）
第13回	頭頸部のリンパ系
第14回	神経(脳神経)
第15回	神経(脊髄神経、自律神経)

シラバス

授業科目区分	専門基礎分野	担当科目	歯・口腔の構造と機能 歯牙解剖	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	滝澤 雄一			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		
実務家教員としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。						
	総合病院 歯科臨床研修(1年)						
	歯科診療所 勤務(7年)						
	歯科診療所 開業(3年)						
実務経験と授業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な歯牙の形態および特徴についての知識を養う。						
学期区分	前期	水曜日 4時限		講義室等	普通教室①		
	後期			授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・歯科衛生士として必要な歯牙の形態および特徴について理解する。	・提出物(スケッチ・暫間被覆冠) ・筆記試験
授業概要	教科書
・講義 ・歯牙のスケッチ ・暫間被覆冠の作製実習	最新歯科衛生士教本 口腔解剖学・口腔組織学・口腔生理学 医歯薬出版株式会社
	参考書
履修上の注意事項	

授業の計画

〈前期〉

第1回	歯の役割、機能、基本的な形態について
第2回	歯の表示法、記号、用語について
第3回	歯根の形態、根管の形態、ミュールライターの三徴候について
第4回	中切歯、側切歯、犬歯の形態学的特徴について／上顎中切歯のスケッチ
第5回	小臼歯の形態学的特徴について／上顎第1小臼歯のスケッチ
第6回	上顎大臼歯の形態学的特徴について／上顎第一大臼歯のスケッチ
第7回	下顎大臼歯の形態学的特徴について／下顎第一大臼歯のスケッチ
第8回	乳歯について
第9回	特色のある歯の形態について
第10回	歯列と咬合について
第11回	暫間被覆冠作製実習
第12回	暫間被覆冠作製実習
第13回	暫間被覆冠作製実習
第14回	暫間被覆冠作製実習
第15回	暫間被覆冠作製実習

シラバス

授業科目区分	専門基礎分野	担当科目	歯・口腔の構造と機能 口腔組織学	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	中島 洋子			受講学科	歯科衛生士学科		
				学年	1年		
実務家教員としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。 歯科大学　保存講座（歯内療法学講座）勤務（2年） 歯科診療所　勤務（30年）						
実務経験と授業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な歯と歯周組織の構造と機能についての知識を養う。						
学期区分	前期			講義室等	普通教室①		
	後期	木曜日　2時限		授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・歯と歯周組織の構造、機能を理解する。 ・口腔組織や歯の発生についての復習および構造学的な理解を深める。	出席率・授業態度・レポート（課題評価）・ 試験成績

授業概要	教科書
・口腔組織の知識を講義形式で学ぶ。 ・理解の確認のため小テストを行う。	最新歯科衛生士教本 口腔解剖学・口腔組織学・口腔生理学 医歯薬出版株式会社
	参考書
	やさしい治癒のしくみとはたらき 医歯薬出版株式会社

履修上の注意事項	

授業の計画

〈後期〉

第1回	概論
第2回	エナメル質
第3回	象牙質
第4回	象牙質
第5回	歯髄
第6回	セメント質
第7回	第1回～第6回の復習　小テスト
第8回	歯根膜
第9回	歯槽骨
第10回	歯肉
第11回	歯肉
第12回	歯および歯周組織の発生について
第13回	歯の萌出について
第14回	小テスト
第15回	まとめ

シラバス

授業科目区分	専門基礎分野	担当科目	疾病の成り立ち及び回復過程の促進 微生物学	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	下村 定資			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	2年		
実務家教員としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。						
	歯科大学 口腔外科学講座 勤務(2年)						
	歯科診療所 勤務(2年)						
	歯科診療所 開設(30年)						
実務経験と授業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な微生物の概要についての知識を養う。						
学期区分	前期	水曜日 3時限		講義室等	普通教室①		
	後期			授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・微生物の概要を理解し、口腔内に常在する微生物について把握する。	・小テスト ・レポート ・定期試験
授業概要	**教科書**
・微生物の基本的性状、病原性と感染により生じる病態および生体の防御機構としての免疫に関する基本的内容を講義する。 ・知識の定着と、理解を深める目的でレポートを課す。	最新歯科衛生士教本 微生物学 医歯薬出版株式会社
	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前期〉

第1回	微生物学の意義
第2回	微生物の一般性状 1
第3回	微生物の一般性状 2
第4回	感染論 1
第5回	感染論 2
第6回	生体の免疫反応 1
第7回	生体の免疫反応 2
第8回	生体の免疫反応 3
第9回	消毒と滅菌 化学療法
第10回	主な病原微生物 1
第11回	主な病原微生物 2
第12回	主な病原微生物 3
第13回	口腔微生物の由来と定着 種類 分類
第14回	歯垢と唾液
第15回	口腔疾患と微生物

シラバス

授業科目区分	専門基礎分野	担当科目	疾病の成り立ち及び回復過程の促進 薬理学	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	佐藤 由紀子			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		
実務家教員としての経歴	薬剤師の資格を有し、以下の実務経験がある。 調剤薬局 勤務(10年)						
実務経験と授業	薬剤師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な薬物の生体内での作用についての知識を養う。						
学期区分	前期			講義室等	普通教室①		
	後期	火曜日 3時限		授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・薬物が生体内でどのように作用し、どのような治療学的意義を持つのかという基礎知識の習得。	・出席状況・授業態度 ・レポート課題 ・単位認定試験
授業概要	**教科書**
教科書を中心とした講義により薬理学の基礎を習得する。	最新歯科衛生士教本 薬理学 医歯薬出版株式会社
	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈後期〉

第1回	Ⅰ編 総論	1章 薬物の作用	
第2回	Ⅰ編 総論	2章 薬物動態	
第3回	Ⅰ編 総論	3章 薬物の適用方法の種類と特徴	
第4回	Ⅰ編 総論	4章 薬物の作用に影響を与える要因	
第5回	Ⅰ編 総論	5章 薬物の副作用・有害作用	
第6回	Ⅰ編 総論	6章 医薬品を適用する際の注意	
第7回	Ⅰ編 総論	7章 医薬品の取り扱い	8章 薬物と法律
第8回	Ⅱ編 各論	1章 ビタミンとホルモン	2章 末梢神経に作用する薬物
第9回	Ⅱ編 各論	3章 中枢神経に作用する薬物	
第10回	Ⅱ編 各論	4章 循環器系に作用する薬物	5章 腎臓に作用する薬物
第11回	Ⅱ編 各論	6章 呼吸器系に作用する薬物	7章 消化器系に作用する薬物
第12回	Ⅱ編 各論	8章 血液に作用する薬物 ～	10章 悪性腫瘍と薬
第13回	Ⅱ編 各論	11章 代謝性疾患治療薬 ～	13章 痛みと薬
第14回	Ⅱ編 各論	14章 局所麻酔薬	15章 抗感染症薬
第15回	Ⅱ編 各論	16章 消毒に作用する薬 ～	20章 顎・口腔粘膜疾患と薬

シラバス

授業科目区分	専門基礎分野	担当科目	疾病の成り立ち及び回復過程の促進 病理学	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	中島 洋子			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	2年		
実務家教員としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。 歯科大学 保存講座(歯内療法学講座)勤務(2年) 歯科診療所 勤務(30年)						
実務経験と授業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な病気の原因や成り立ちについての知識を養う。						
学期区分	前期	金曜日 2時限		講義室等	普通教室②		
	後期			授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・病気の原因や成り立ちについて、病理組織学的に理解を深め、治療やケアを行う上で、その知識が役立つものになるよう学習する。 ・口腔に生じる様々な病気について理解し、他教科の学習と併せて理解を深めるよう学習する。	・出席率 ・授業態度 ・レポート(課題評価) ・試験成績
授業概要	教科書
・前半は身体全体の知識、後半は口腔に関する基本的知識を講義形式で学ぶ。	最新歯科衛生士教本 病理学 医歯薬出版株式会社
	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前期〉

第1回	概論
第2回	病因論
第3回	遺伝性疾患と奇形
第4回	循環障害
第5回	代謝障害と退行性病変
第6回	増殖と修復(進行性病変)
第7回	炎症
第8回	免疫応答異常
第9回	腫瘍
第10回	口腔病理学(歯の発育異常、歯の損傷と着色、う蝕)
第11回	口腔病理学(象牙質・歯髄複合体の病変)
第12回	口腔病理学(歯周組織の病態)
第13回	口腔病理学(口腔粘膜の病変、嚢胞と腫瘍、口腔がん)
第14回	口腔病理学(顎骨の病変、唾液腺の病変、口腔領域の奇形)
第15回	口腔病理学(口腔組織の加齢変化)～まとめ～

シラバス

授業科目区分	専門基礎分野	担当科目	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 衛生・公衆衛生学	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	三井 久史			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		
実務家教員としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。						
	大学歯学部 補綴学教室 勤務(2年)						
	企業(工場) 歯科診療所 勤務(1年) 総合病院 口腔外科 勤務(2年)						
	歯科診療所 開業(37年)						
実務経験と授業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な衛生学・公衆衛生学についての知識を養う。						
学期区分	前期			講義室等	普通教室①		
	後期	木曜日 3時限		授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
口腔衛生学の基礎として、衛生学・公衆衛生学の概要を知り、公衆衛生活動の基礎的な知識を習得する。	・小テスト ・レポート ・定期試験
授業概要	教科書
各章に関連した国家試験問題を解説し理解を深める。	最新歯科衛生士教本 保健生態学 医歯薬出版株式会社
	参考書
	最新歯科衛生士教本 微生物学／栄養と代謝 医歯薬出版株式会社

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前期〉

第1回	Ⅰ編 1章 総論
第2回	Ⅰ編 2章 疫学
第3回	Ⅰ編 3章 人口
第4回	Ⅰ編 4章 健康と環境
第5回	Ⅰ編 5章 感染症
第6回	Ⅰ編 6章 食品と健康
第7回	Ⅲ編 1章 地域保健・公衆衛生
第8回	Ⅲ編 2章 母子保健
第9回	Ⅲ編 3章 学校保健
第10回	Ⅲ編 4章 成人保健
第11回	Ⅲ編 5章 産業保健
第12回	Ⅲ編 6章 老人(高齢者)保健
第13回	Ⅲ編 7章 精神保健
第14回	Ⅲ編 8章 災害時の歯科保健 9章 国際保健
第15回	まとめ

シラバス

授業科目 区分	専門基礎	担当科目	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 衛生統計学	単位数	2	選択 必修	必修
				時間数	30		
担当教員	佐藤　治道			受講学科	歯科衛生士学科		
				学　年	1年		
実務家教員としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。						
	歯科診療所　勤務(6年)						
	歯科診療所　開業(14年)						
実務経験と授業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な医療統計学の基本知識を養う。						
学期区分	前期			講義室等	普通教室②・基礎実習室		
	後期	水曜日　4時限		授業形式	講義・実習		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
歯科衛生分野で必要となる医療統計学の基本を身につけ、実践することを目標にする.	・筆記試験 ・出席・授業態度 ・課題の到達度・提出度
授業概要	教科書
・歯科衛生分野で必要な保健医療情報の収集と取捨選択 ・収集したデータの処理と分析 ・情報の保護と倫理	最新衛生士教本　保健情報統計学
	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈後期〉

第1回	1章　保健情報と保健統計
第2回	2章　保健情報と疫学①
第3回	2章　保健情報と疫学②
第4回	2章　保健情報と疫学③
第5回	3章　歯科疾患の指数①
第6回	3章　歯科疾患の指数②
第7回	3章　歯科疾患の指数③
第8回	3章　歯科疾患の指数④
第9回	4章　保健情報の分析手順①
第10回	4章　保健情報の分析手順②
第11回	5章　保健統計の方法①
第12回	5章　保健統計の方法②　/　6章　保健情報の分析演習①
第13回	6章　保健情報の分析演習②
第14回	7章　情報の保護と倫理
第15回	まとめ

シラバス

授業科目区分	専門基礎分野	担当科目	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 口腔衛生学	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	小林 暁			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		

実務家教員としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。
	大学歯学部 小児歯科学教室 勤務(7年)
	歯科診療所 開業(39年)
実務経験と授業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な口腔衛生の実際に関する知識と技術を養う。

学期区分	前期	火曜日 1時限	講義室等	普通教室①
	後期		授業形式	講義

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・歯科疾患予防の基礎として口腔衛生学を十分に理解し、歯科における公衆衛生指導の実際についての知識を習得する。	・小テスト ・レポート ・定期試験
授業概要	**教科書**
・講義形式で歯・口腔の健康と予防に関する基本的知識を習得し、歯科疾患の予防能力を高める態度を養う。 ・口臭測定、位相差顕微鏡によるプラーク観察については実習を行う。	最新歯科衛生士教本 保健生態学 医歯薬出版株式会社
	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前期〉

第1回	保健生態学、口腔衛生学、予防医学の概念
第2回	歯・口腔の健康と予防
第3回	全身と歯、口の発育、全身疾患との関連
第4回	歯、口腔の付着物・沈着物
第5回	口腔清掃・歯磨剤・洗口剤
第6回	歯科疾患の疫学、う蝕の予防法(1)
第7回	う蝕の予防法(2)、う蝕の発病の仕組み
第8回	う蝕活動性、う蝕の予防法
第9回	フッ化物の応用(1)
第10回	フッ化物の応用(2)
第11回	口腔衛生学実習(口臭測定、位相差顕微鏡によるプラーク観察等)
第12回	歯周疾患の予防
第13回	その他の疾患、異常の予防
第14回	まとめ(1)
第15回	まとめ(2)

シラバス

授業科目区分	専門基礎分野	担当科目	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 栄養学Ⅰ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	安齋 理江			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		
実務家教員としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。 大学歯学部　勤務(2年) 歯科診療所　開業(30年)						
実務経験と授業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な栄養・食事指導についての知識を養う。						
学期区分	前期	火曜日　3時限		講義室等	普通教室①		
	後期			授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・栄養学の概要を学び、歯科保健指導および歯科衛生教育を行うのに必要な栄養・食事指導についての知識を学ぶ。	・小テスト ・レポート ・定期試験
授業概要	**教科書**
・栄養素の消化吸収と栄養的はたらきについて講義形式で学ぶ。 ・小テストで知識の確認と定着を図る。	最新歯科衛生士教本　栄養と代謝 医歯薬出版株式会社
	参考書
	食品成分表 実教出版
履修上の注意事項	

授業の計画

〈前期〉

第1回	栄養の基礎知識
第2回	食生活と栄養
第3回	栄養素の消化・吸収
第4回	食事摂取基準
第5回	基礎代謝
第6回	日本人の食事摂取基準
第7回	栄養素の働き、糖質の栄養的意味
第8回	タンパク質の栄養的意味
第9回	脂質の栄養的意味
第10回	ビタミンの栄養的意味
第11回	ミネラルの栄養的意味
第12回	水の栄養的意味
第13回	食物繊維の栄養的意味
第14回	食生活と栄養
第15回	食べ物と健康、食品成分表

シラバス

授業科目区分	専門基礎分野	担当科目	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 栄養学Ⅱ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	安齋 理江			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	2年		
実務家教員としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。						
	大学歯学部 勤務(2年)						
	歯科診療所 開業(30年)						
実務経験と授業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な栄養・食事指導についての知識を一層養う。						
学期区分	前期	火曜日 2時限		講義室等	普通教室②		
	後期			授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・栄養学の概要を学び、歯科保健指導および歯科衛生教育を行うために必要な栄養について一層学ぶ。	・小テスト ・レポート ・定期試験
授業概要	**教科書**
・講義形式で栄養素の働きについて学ぶ。 ・歯科衛生士として代用甘味料に関する知識を身につけ、理解を深めるためにレポートを作成する。	最新歯科衛生士教本 栄養と代謝 医歯薬出版株式会社
	参考書
	食品成分表 実教出版

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前期〉

第1回	生体の構成要素、細胞の役割
第2回	生体における水
第3回	生体構成成分と栄養素
第4回	生体における化学反応、消化と吸収
第5回	酸素の運搬と二酸化炭素の排出
第6回	代謝
第7回	糖質と脂質の代謝、エネルギー代謝の全体像
第8回	糖質の代謝とエネルギーの生成
第9回	脂質の代謝とエネルギーの生成
第10回	タンパク質とアミノ酸の代謝、タンパク質の加水分解
第11回	アミノ酸の代謝分解
第12回	タンパク質の合成
第13回	生体における恒常性の維持
第14回	ホルモン系と自律神経系
第15回	まとめ

シラバス

授業科目区分	専門基礎分野	担当科目	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 衛生行政・社会福祉	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	宮﨑　栄理子			受講学科	歯科衛生士学科		
				学　年	2年		

実務家教員としての経歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の実務経験がある。 歯科診療所　勤務(4年)
実務経験と授業	歯科衛生士の実務経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な法律・制度に関する基本的知識を養う。

学期区分	前期		講義室等	普通教室②
	後期	集中講義	授業形式	講義

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・日本の保健・医療・福祉制度と医事法制を理解し歯科衛生のあり方を考える態度を養うために歯科衛生士に必要な法律・制度に関する基本的知識を習得する。	・出席状況・授業態度 ・小テスト ・単位認定試験
授業概要	**教科書**
・衛生行政の仕組みや保健医療、福祉に関連する法規について学ぶ。 ・社会福祉や社会保険制度における医療保障の諸対策について、理解を深める	最新歯科衛生士教本 歯科衛生士と法律・制度 第3版 医歯薬出版株式会社
	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈後期〉

第1回	1章　歯科衛生士と法律　①　はじめに
第2回	1章　歯科衛生士と法律　②　歯科衛生士法　※国家試験過去問題
第3回	1章　歯科衛生士と法律　③　歯科医師法　※国家試験過去問題
第4回	1章　歯科衛生士と法律　④　歯科技工士法　⑤　歯科口腔保健の推進に関する法律
第5回	1章　歯科衛生士と法律　⑥　医療法　※国家試験過去問題
第6回	2章　医療関係職種　※国家試験過去問題
第7回	3章　その他の関係法規　①薬事に関連する法規
第8回	3章　その他の関係法規　②地域保健に関連する法規　※国家試験過去問題
第9回	3章　その他の関係法規　③その他の衛生法規
第10回	4章　社会保障　①社会保障　②社会保険　③医療保険　※国家試験過去問題
第11回	4章　社会保障　④介護保険　※国家試験過去問題
第12回	4章　社会保障　⑤年金保険　⑥雇用保険
第13回	4章　社会保障　⑦社会福祉　※国家試験過去問題
第14回	5章　医療の動向
第15回	まとめ

シラバス

授業科目区分	専門分野	担当科目	歯科衛生士概論 歯科衛生学総論	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	宮崎　栄理子			受講学科	歯科衛生士学科		
				学　年	1年		

実務家教員としての経歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の実務経験がある。 歯科診療所　勤務(4年)
実務経験と授業	・歯科衛生士の実務経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な保健医療人としての基本的態度を理解し、多様な科目において知識・技術を習得するための基本的知識を養う。

学期区分				
	前期	金曜日　2時限	講義室等	普通教室①
	後期		授業形式	講義

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・歯科衛生業務を実践し、人々の健康づくりを支援するために、保健医療人としての基本的態度を理解し、多様な科目において知識・技術を習得する態度および論理的思考法の基礎を習得する。	・出席状況 ・授業態度 ・単位認定試験
授業概要	**教科書**
・対象とする人のニーズの把握の仕方、歯科衛生業務の考え方や行動の仕方を理解する。 ・倫理的な視点と科学的な裏付けをもって仕事をすることの意味を考える。	最新歯科衛生士教本　歯科衛生学総論 医歯薬出版株式会社
	参考書

履修上の注意事項	・各章の学習終了後、理解度確認のため小テストを実施する。(全9回) ・授業態度、小テスト成績についても加味し、総合的に評価する。

授業の計画

〈前期〉

第1回	学習オリエンテーション	
第2回	1-①歯科衛生学　1-②歯科衛生と健康	
第3回	1-③歯科衛生活動の対象 1-④歯科衛生活動の領域	【#1小テスト】
第4回	2　歯科衛生の歴史　8　海外における歯科衛生士	
第5回	3-①予防の概念	【#2小テスト】
第6回	3-②歯科衛生の考え方　-科学的思考-	
第7回	4　歯科衛生過程	【#3小テスト】
第8回	5-①歯科衛生士と歯科衛生士法	
第9回	5-②歯科衛生士の役割	【#4小テスト】
第10回	5-③関連法規	【#5小テスト】
第11回	5-④安全管理	【#6小テスト】
第12回	6-①倫理の必要性　6-②医の倫理と患者の権利　6-③歯科衛生と倫理	【#7小テスト】
第13回	6-④対象の自己決定権の尊重　6-⑤ｲﾝﾌｫｰﾑﾄﾞ･ｺﾝｾﾝﾄ　6-⑥倫理の適用	【#8小テスト】
第14回	7-①歯科衛生活動の現況 7-②歯科衛生活動の場	【#9小テスト】
第15回	7-③歯科衛生士と組織	【国家試験過去問題】

シラバス

授業科目区分	専門分野	担当科目	臨床歯科医学 歯科臨床概論	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	宮下 貞夫			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		

実務家教員としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。
	歯科大学 勤務(8年)
	歯科医院 開業(48年)
	日本小児歯科学会認定医 日本矯正歯科学会認定医 日本小児歯科学会専門医
実務経験と授業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な歯科医学や臨床知識を養う。

学期区分				
前期	金曜日 1時限	講義室等	普通教室①
後期		授業形式	講義

授業のねらい、目標	成績評価の方法
1.歯科衛生士学生のための歯科医学や臨床への入門 2.歯科臨床のシステムや診療の流れを教え、その中で活躍する歯科衛生士の役割を自覚してもらう。診療の流れ、医療人の心得等歯科臨床に関わる全てのことを学んでもらう。	・授業中の態度 ・レポート課題 ・定期試験
授業概要	**教科書**
・教科書中心の講義、その関連付けと解説 ・毎回 小レポート ・毎回 前回の復習	歯科衛生士のための歯科臨床概論 医歯薬出版株式会社
	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前期〉

第1回	勉強の進め方
第2回	歯科臨床概論とは、基礎科目・臨床科目
第3回	臨床科目の内容
第4回	医療について
第5回	健康について
第6回	健康について、医療人の義務
第7回	ヒポクラテスの誓い、メインテナンス、教科書 Ⅰ編 1章 歯科診療とは
第8回	教科書 Ⅰ編 2章 歯科診療所
第9回	教科書 Ⅰ編 2章歯科診療所 3.歯科診療所における安全管理、インフォームドコンセント
第10回	教科書 Ⅰ編 3章 歯科診療所における業務 教科書 Ⅱ編 1章 ライフステージと歯科診療、2章 診療で行うこと—主な診療の流れ—
第11回	教科書 Ⅱ編 2章 歯科診療で行うこと—主な診療の流れ— 6.歯周治療
第12回	教科書 Ⅱ編 2章 歯科診療で行うこと—主な診療の流れ— 2.小児歯科❷先天異常への対応
第13回	教科書 Ⅱ編 2章 歯科診療で行うこと—主な診療の流れ—う蝕
第14回	教科書 Ⅱ編 2章 歯科診療で行うこと—主な診療の流れ—不正咬合
第15回	教科書 Ⅱ編 2章 歯科診療で行うこと—主な診療の流れ—外傷、まとめ

シラバス

授業科目区分	専門分野	担当科目	臨床歯科医学 保存修復学	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	小林 敏郷			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		

実務家教員としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。
	歯科大学 保存科 勤務(8年)
	歯科診療所 勤務(2年) 歯科診療所 開業(16年)
	日本歯科保存学会 専門医
実務経験と授業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な診療の流れや材料や器械を十分に使いこなすための知識と診療補助を行う術者としての熟練した技術を養う。

学期区分				
	前期		講義室等	普通教室①
	後期	金曜日 3時限	授業形式	講義

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・保存修復における診療補助を行う術者としての熟練した技術、さらに診療の流れや材料や器械を十分に使いこなすための知識を身につける。	・定期試験
授業概要	教科書
・教科書に沿って、専門用語等わかりやすく解説しながら、実際の材料等も見ながら理解を深める。	最新歯科衛生士教本 保存修復・歯内療法 医歯薬出版株式会社
	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈後期〉

第1回	総 論	歯の保存療法とは
第2回		ミニマルインターベンション
第3回		口腔内審査 ①
第4回		口腔内審査 ②
第5回	各 論	硬組織疾患の種類と病態
第6回		窩洞形態と分類
第7回		保存修復治療の概要
第8回		歯の切削と歯髄保護
第9回		コンポジットレジン修復 ①
第10回		コンポジットレジン修復 ②
第11回		グラスアイオノマー修復
第12回		鋳造修復 ①
第13回		鋳造修復 ②
第14回		ラミネートベニア修復、セラミックレジンインレー修復
第15回		歯科用セメント

シラバス

授業科目区分	専門分野	担当科目	臨床歯科医学 歯・歯髄疾患論	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	堀　聡久			受講学科	歯科衛生士学科		
				学　年	2年		

実務家教員としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。
	歯科診療所　勤務(9年)
	歯科診療所　開業(3年)
実務経験と授業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な歯内療法学を通して最新の知識と技術を養う。

学期区分				
前期	水曜日　4時限	講義室等	普通教室②
後期		授業形式	講義

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・歯内療法学として、関連歯科疾患及びその診断、治療法について理解する。 また、同学問における最新の知識と技術を学ぶとともに、歯科衛生士として必要な臨床、公衆衛生の実際を理解し実務に生かせるようにする。	・出席状況・態度 ・小テスト ・定期試験
授業概要	教科書
・歯内療法の概要を理解する。 ・歯内療法における疾患及びその治療方法を理解する。 ・歯内療法における機材、薬剤を理解する。 ・歯内療法における臨床と実際を知る。	最新歯科衛生士教本　保存修復・歯内療法 医歯薬出版株式会社
	参考書
履修上の注意事項	実施の臨床では最も基本でありながら理解するのが難しく知らないと困る分野の一つです。 わからないまま先に進まず、一つ一つ覚えていきましょう。

授業の計画

〈前期〉

第1回	歯内療法の概要「歯内療法学とは？」
第2回	歯内療法における主な疾患及び原因
第3回	歯内療法における主な疾患の診断及び治療法
第4回	第1～3回小テスト(採点から解説まで)　歯の痛み、歯髄の診断
第5回	歯髄温存療法
第6回	歯髄除去療法(抜髄)
第7回	根管治療①(抜髄と感染根管治療について、根管治療の術式の流れ)
第8回	根管治療②(抜髄と感染根管治療について、根管治療の術式の流れ)
第9回	根管治療の実際(機材、薬剤、その他臨床応用)
第10回	第5～9回小テスト(採点から解説まで)　最新の歯内療法
第11回	歯の外傷、外科的歯内療法
第12回	歯内療法における安全対策(偶発症とその対応)
第13回	歯内療法における歯科衛生士の役割及び実際
第14回	第11～13回小テスト(採点から解説まで)　まとめ
第15回	全範囲小テスト　まとめ

シラバス

授業科目区分	専門分野	担当科目	臨床歯科医学 歯周療法学Ⅰ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	羽田　房子			受講学科	歯科衛生士学科		
				学　年	1年		

実務家教員としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。
	大学歯学部　補綴学教室　勤務(3年)
	歯科診療所他　勤務(39年)
	産業歯科医・産業カウンセラー・労働衛生コンサルタント(保健衛生)・介護支援専門員
実務経験と授業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な歯周治療に果たす歯科衛生士の役割についての知識と技術を養う。

学期区分				
	前期		講義室等	普通教室①
	後期	月曜日　2時限	授業形式	講義

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・歯周組織、歯周病、歯周治療の実際、歯周治療に果たす歯科衛生士の役割についての知識を修得する。	・定期試験

授業概要	教科書
・教科書の内容の要点をまとめたプリントを配布し説明して進める。 ・授業中1回は全員が質問に回答するよう、双方向の進行を心掛ける。 ・小テストでは理解の度合いを確認し、不足の場合は再度説明する。	最新歯科衛生士教本　歯周疾患 医歯薬出版株式会社
	参考書
	歯肉を読む クインテッセンス出版

履修上の注意事項	

授業の計画

〈後期〉

第1回	Ⅰ-1	歯周治療とは　症例		
第2回	Ⅰ-2	正常な歯周組織の構造		
第3回	Ⅰ-2	正常な歯周組織の機能		
第4回	Ⅰ-3	①	歯周疾患の分類	
第5回	Ⅰ-3	①	歯周疾患の分類	(歯肉炎の分類)
第6回	Ⅰ-3	①	歯周疾患の分類	(歯周炎の分類他)
第7回	Ⅰ-3	①	歯周疾患の原因	1.局所性初発因子
第8回	Ⅰ-3	②	歯周疾患の原因	2.局所性修飾因子
第9回	Ⅰ-3	②	歯周疾患の原因	2.全身性修飾因子
第10回	Ⅰ-3	②	歯周疾患の原因	2.機能性修飾因子
第11回	Ⅱ-1	歯周治療の進め方		
第12回	Ⅱ-2	歯周疾患の診査	一般・歯周組織検査	
第13回	Ⅱ-2	歯周疾患の診査	歯周組織検査	
第14回	Ⅱ-2	歯周疾患の診査	咬合の診査・X線診査	
第15回	Ⅱ-3	歯周基本治療		

シラバス

授業科目区分	専門分野	担当科目	臨床歯科医学 歯周療法学Ⅱ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	羽田　房子			受講学科	歯科衛生士学科		
				学　年	2年		

実務家教員としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。
	大学歯学部　補綴学教室　勤務(3年)
	歯科診療所他　勤務(39年)
	産業歯科医・産業カウンセラー・労働衛生コンサルタント(保健衛生)・介護支援専門員
実務経験と授業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な歯周病の予防と治療を実践するための知識と技術を養う。

学期区分				
前期	月曜日　2時限	講義室等	普通教室②
後期		授業形式	講義

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・歯周病の予防と治療を実践するための知識を習得し、実践に応用していく。	・定期試験
授業概要	**教科書**
・教科書の内容の要点をまとめたプリントを配布し説明して進める。 ・授業中1回は全員が質問に回答するよう、双方向の進行を心掛ける。 ・小テストで理解の度合いを確認し、不足の場合は再度説明する。 ・外科手術についてはビデオで実施の手術を見て学習する。	最新歯科衛生士教本　歯周疾患 医歯薬出版株式会社 **参考書** 歯肉を読む　クインテッセンス出版

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前期〉

第1回	Ⅱ-3	歯周基本治療	
第2回	Ⅱ-3	歯周基本治療	
第3回	Ⅱ-4	歯周外科治療	
第4回	Ⅱ-4	歯周外科治療	目的・分類
第5回	Ⅱ-4	歯周外科治療	治癒形態
第6回	Ⅱ-4	歯周外科治療	外科器具、適応症
第7回	Ⅱ-4	歯周外科治療	根分岐部病変
第8回	Ⅱ-5	リハビリテーション	
第9回	Ⅱ-5	リハビリテーション	インプラント
第10回	Ⅱ-6	メインテナンス	
第11回	歯肉を読む		
第12回	歯肉を読む		
第13回	歯肉を読む		
第14回	歯肉を読む		
第15回	Ⅱ-7	歯科衛生士の役割	

シラバス

授業科目区分	専門分野	担当科目	臨床歯科医学 歯科補綴学	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	安齋　晃徳			受講学科	歯科衛生士学科		
				学　年	2年		

実務家教員としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。
	大学歯学部 補綴学教室 勤務(7年)
	歯科診療所　開業(30年)
実務経験と授業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な治療計画、治療、治療後の管理および補綴診療における診療補助力を養う。

学期区分				
	前期	金曜日　3時限	講義室等	普通教室②
	後期		授業形式	講義

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・歯質の広範囲に及ぶ欠損、喪失における口腔の特性、それに関する形態的、機能的変化を理解し、治療計画、治療、治療後の管理および補綴診療における診療補助を身につける。	・定期試験 ・出席点(出席、授業態度等を加味)
授業概要	**教科書**
・歯科補綴治療の意義と目的と歯科衛生士の役割について、講義形式で学ぶ。 ・歯科補綴治療に用いる器具・器材の取り扱いについては実習を行う。	最新歯科衛生士教本　歯科補綴　第2版 医歯薬出版株式会社
	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前期〉

第1回	補綴歯科治療の概要
第2回	補綴歯科治療の基礎知識
第3回	補綴歯科治療における検査
第4回	補綴歯科治療の検査
第5回	Cr&Br治療、CAD/CAM Cr＆Br治療
第6回	Cr&Br治療の実際、プロビジョナルレストレーション
第7回	精密印象、CAD/CAM　治療に伴うトラブル
第8回	有床義歯治療の実際　　中テスト
第9回	全部床義歯　　患者指導
第10回	部分床義歯治療
第11回	フレームワーク　　患者指導
第12回	インプラント治療の概要
第13回	インプラント治療の流れ
第14回	特殊な口腔内装置を用いる治療、補綴歯科治療における器材の管理
第15回	国家試験対策、復習

シラバス

授業科目区分	専門分野	担当科目	臨床歯科医学 口腔外科学	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	横林 敏夫			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		

実務家教員としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の通り実務経験がある。
	大学 歯学部 口腔外科 勤務(11年)
	総合病院 歯科口腔外科 勤務(31年)
	歯学博士 日本口腔外科学会認定医 日本口腔外科学会指導医
実務経験と授業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な口腔外科治療の、疾患、症状、治療法についての知識を養う。

学期区分				
前期		講義室等	言語聴覚士学科 5階ホール
後期	月曜日 3時限	授業形式	講義

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・口腔外科治療の、疾患、症状、治療法について理解する。	・定期試験
授業概要	教科書
・症例スライドを用いて、口腔外科領域疾患の病態、治療方法について講義形式で学ぶ。	最新歯科衛生士教本 口腔外科・歯科麻酔 医歯薬出版株式会社
	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈後期〉

第1回	口腔領域の発育異常と奇形・変形
第2回	口腔領域の発育異常と奇形・変形
第3回	口腔領域の損傷
第4回	口腔粘膜疾患
第5回	口腔領域の炎症
第6回	口腔領域の嚢胞
第7回	口腔領域の嚢胞、口腔領域の腫瘍
第8回	口腔領域の腫瘍
第9回	口腔外科の小手術(歯科衛生士)
第10回	口腔外科の小手術(歯科衛生士)
第11回	歯科麻酔
第12回	歯科麻酔
第13回	顎関節疾患
第14回	唾液腺疾患
第15回	口腔領域の神経疾患

シラバス

授業科目区分	専門分野	担当科目	臨床歯科医学 小児歯科学	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	宮下 貞夫			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		

実務家教員としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。
	歯科大学 勤務(8年)
	歯科医院 開業(48年)
実務経験と授業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な小児の全身的発育と健康知識を養う。

学期区分				
	前期		講義室等	普通教室①
	後期	月曜日 1時限	授業形式	講義

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・成長・発展途上にある書にの特徴を理解し、健全な育成を通して小児の全身的発育と健康を学ぶ。	・授業中の態度 ・レポート課題提出 ・定期試験
授業概要	教科書
・教科書中心の講義、その関連付けと解説 ・毎回 前回の復習とレポート提出	最新歯科衛生士教本 小児歯科 医歯薬出版株式会社
	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈後期〉

第1回	小児とは
第2回	子どもの発達障害
第3回	教科書Ⅰ編1章小児歯科概論
第4回	教科書 Ⅰ編 2章 心身の発育
第5回	教科書 Ⅰ編 2章 心身の発育
第6回	教科書 Ⅰ編 2章 心身の発育
第7回	教科書 Ⅰ編 2章 心身の発育
第8回	教科書 Ⅰ編 3章 小児の生理的特徴
第9回	教科書 Ⅰ編 4章 顔面頭蓋の発育
第10回	教科書 Ⅰ編 5章 歯の発育とその異常
第11回	教科書 Ⅰ編 6章 歯列・咬合不正の発育と異常
第12回	教科書 Ⅰ編 6章 歯列・咬合不正の発育と異常
第13回	教科書 Ⅰ編 7章 小児の歯科疾患
第14回	教科書 Ⅰ編 7章 小児期の特徴
第15回	教科書 Ⅱ編 2章 咬合誘導、まとめ

シラバス

授業科目区分	専門分野	担当科目	臨床歯科医学 歯科矯正学	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	大野 秀徳			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	2年		

実務家教員としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の実務経験がある。
	大学歯学部 矯正学教室 勤務(8年)
	歯科診療所(矯正)開業(23年)
実務経験と授業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な不正咬合に伴う咬合機能障害についての知識と適切な診療の補助技術を養う。

学期区分				
前期	火曜日 1時限	講義室等	普通教室②
後期		授業形式	講義

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・不正咬合に伴う咬合機能障害や心理的障害と、不正咬合の原因や、その治療方法、及び予防方法を学び、適切な診療の補助を行うことができる。	・定期試験
授業概要	教科書
・矯正歯科治療の歴史を辿り、歯科矯正学の定義、概念、治療の必要性について学ぶ。 ・不正咬合を類型別にまとめ、定義と特徴、一般的な治療の流れを学ぶ。	最新歯科衛生士教本 歯科矯正 医歯薬出版株式会社
	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前期〉

第1回	矯正歯科治療の概要
第2回	成長発育
第3回	正常咬合と不正咬合
第4回	矯正歯科診断
第5回	矯正歯科治療と“力”—矯正力・顎整形力・保定—
第6回	矯正装置
第7回	上下顎の前後的関係の不調和／上下顎の垂直的関係の不調和(過蓋咬合・開咬)
第8回	成人矯正／口腔顎顔面の形成異常と変形
第9回	歯の埋伏と歯数の異常／歯科矯正時のトラブルへの対応
第10回	健康保険が適応される矯正歯科治療
第11回	矯正歯科診断に関わる業務
第12回	矯正歯科診療時の業務
第13回	矯正歯科患者と口腔保健管理
第14回	口腔筋機能療法／器材、資料、文書の管理
第15回	まとめ

シラバス

授業科目区分	専門分野	担当科目	臨床歯科医学 高齢者歯科学Ⅰ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	池田 秀子			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		

実務家教員としての経歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。
	歯科診療所 勤務(7年)
	行政 保健福祉部 勤務(15年)
	団体 生活部 福祉科 勤務(13年)
実務経験と授業	歯科衛生士の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な高齢者・有病者の身体的・精神的特徴について知識を養う。

学期区分				
	前期		講義室等	普通教室①
	後期	木曜日 4時限	授業形式	講義

授業のねらい、目標	成績評価の方法
高齢者・有病者の身体的・精神的特徴と歯科治療上の留意事項及びを理解することを目標に、高齢者歯科に対する理解を深め、実践に繋がる知識・技術・姿勢の習得を目指したいと考える。	・定期試験 ・ミニテスト ・出席状況及び態度
授業概要	教科書
教本を中心に、パワーポイントを活用し視覚的解説を加え、臨床場面の状況・事例・症例等の紹介を織り交ぜた講義により、実践に繋がる理解力の向上を図りたいと思う。	最新歯科衛生士教本 高齢者歯科 第2版 医歯薬出版株式会社
	参考書
	ポイントチェック歯科衛生士国家試験対策④ クインテッセンス出版

履修上の注意事項	・理解度確認のためミニテストを実施する。 ・授業態度、ミニテストの成績についても加味し、総合的に評価する。

授業の計画

〈後期〉

第1回	レクチャー体験[自己紹介]	
第2回	序章 高齢者歯科と歯科衛生士の役割	
第3回	Ⅰ編 社会と環境	1章 高齢社会と健康
第4回	Ⅰ編 社会と環境	2章 法制度
第5回	Ⅰ編 社会と環境	3章 居住形態施設等の特徴
第6回	Ⅱ編 加齢による身体的・精神的変化と疾患	1章 身体的機能の変化 ①全身的変化
第7回	Ⅱ編 加齢による身体的・精神的変化と疾患	1章 身体的機能の変化 ②口腔・咽頭領域の加齢変化
第8回	Ⅱ編 加齢による身体的・精神的変化と疾患	2章 精神心理的変化
第9回	Ⅱ編 加齢による身体的・精神的変化と疾患	3章 全身疾患・障害及び口腔疾患 ①主たる死因となる疾患
第10回	Ⅱ編 加齢による身体的・精神的変化と疾患	3章 全身疾患・障害及び口腔疾患 ②高齢者に特有な口腔疾患 [事例1]
第11回	Ⅲ編 高齢者の状態の把握	1章 高齢者の生活機能の評価
第12回	Ⅲ編 高齢者の状態の把握	2章 高齢者歯科と臨床検査
第13回	Ⅲ編 高齢者の状態の把握	3章 高齢者の栄養状態 ①低栄養になりやすい高齢者の栄養評価
第14回	Ⅲ編 高齢者の状態の把握	3章 高齢者の栄養状態 ②経口摂取の代償による水分・栄養摂取法
第15回	Ⅲ編 高齢者の状態の把握	4章 高齢者の薬物服用

シラバス

授業科目区分	専門分野	担当科目	臨床歯科医学 高齢者歯科学Ⅱ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	池田 秀子			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	2年		

実務家教員としての経歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。
	歯科診療所　勤務(7年)
	行政 保健福祉部 勤務(15年)
	団体 生活部 福祉科 勤務(13年)
実務経験と授業	歯科衛生士の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な高齢者・有病者の身体的・精神的特徴についての知識を深め実践につながる技術を養う。

学期区分				
前期	木曜日　4時限	講義室等	普通教室②
後期		授業形式	講義

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・高齢者・有病者の身体的・精神的特徴と歯科治療上の留意事項及び口腔衛生管理・口腔機能管理の実際を理解することを目標に、講義と実習を通して高齢者歯科に対する理解を深め、実践に繋がる知識・技術・姿勢の習得を目指したいと考える。	・定期試験 ・ミニテスト ・出席状況及び態度
授業概要	教科書
教本を中心に、パワーポイントを活用し視覚的解説を加え、臨床場面状況・事例・症例等の紹介を織り交ぜた講義と要介護高齢者に対する口腔ケアの実習の体験から理解力の向上を図りたいと思う。	最新歯科衛生士教本　高齢者歯科 第2版 医歯薬出版株式会社
	参考書
	ポイントチェック歯科衛生士国家試験対策④ 歯科衛生士のための摂食嚥下ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ 第2版

履修上の注意事項	・理解度の確認のためミニテストを実施する。 ・授業態度、ミニテストの成績についても加味し、総合的に評価する。

授業の計画

〈前期〉

第1回	Ⅳ編　口腔ケア　1章　高齢者に対する口腔ケア [事例2]
第2回	Ⅳ編　口腔ケア　2章　有病高齢者への口腔ケア
第3回	Ⅳ編　口腔ケア　3章　要介護高齢者への口腔ケア ①要介護高齢者における口腔ケアの意義
第4回	Ⅳ編　口腔ケア　3章　要介護高齢者への口腔ケア ②歯科治療の目標設定と目安 ③臨床現場における歯科衛生士の役割
第5回	Ⅴ編　摂食嚥下ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ 1章　高齢者のリハの概要
第6回	Ⅴ編　摂食嚥下ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ 2章　摂食嚥下の評価と対応
第7回	Ⅴ編　摂食嚥下ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ 3章　誤嚥性肺炎予防の訓練
第8回	Ⅴ編　摂食嚥下ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ 4章　在宅歯科診療のリハ [事例3]
第9回	Ⅴ編　摂食嚥下ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ 5章　介護施設のリハ　[事例4]
第10回	Ⅵ編　医療と介護　1章　在宅訪問診療の概要
第11回	Ⅵ編　医療と介護　2章　DHが関わる公的介護保険
第12回	Ⅵ編　医療と介護　3章　かかりつけ歯科の役割
第13回	Ⅵ編　医療と介護　4章　訪問看護と歯科の役割
第14回	実習〔要介護高齢者に対する口腔ケアの実際〕
第15回	Ⅶ編　歯科衛生過程　1章　概要　2章　事例　[事例5]

シラバス

授業科目区分	専門科目	担当科目	歯科予防処置論 歯科予防処置法Ⅰ	単位数	6	選択必修	必修
				時間数	120		
担当教員	岡部　あゆ美			受講学科	歯科衛生学科		
				学　年	1年		

実務家教員としての経歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 歯科診療所　勤務（4年）
実務経験と授業	歯科衛生士の実務経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な歯・口腔の状況把握および歯科予防処置の基本的知識および口腔内における安全に配慮した機械的操作の知識・技術・態度を養う。

学期区分				
	前期	月曜日　1、2時限	講義室等	基礎実習室・実習室
	後期	金曜日　1、2時限	授業形式	講義・実習

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・歯・口腔の状況把握および歯科予防処置の基本的知識および口腔内における安全に配慮した機械的操作の知識・技術・態度を修得する。	実技試験・筆記試験・小テスト・身支度・提出物・授業態度・出席状況

授業概要	教科書
1　歯周組織および口腔内の組織や病態、病因について基本的な知識を学ぶ。 2　歯周病予防における歯周検査から歯石除去、歯面研磨までの一連の流れを正確に、且つ安全に行えるよう基本的な技術、知識を習得する。	最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 最新歯科衛生士教本「歯周病学」
	参考書
	最新歯科衛生士教本「口腔保健管理」 参考書「歯肉を診る・歯肉を読む」

履修上の注意事項	
	・実技試験の受験資格は実習受講者のみとし、実技試験に合格しない場合は単位認定不可とする。 ・定期試験は前期50点、後期50点の合計100点満点とし、60点以上獲得で単位認定とする。

授業の計画

〈前期〉		〈後期〉	
第1回	歯科予防処置概論／口腔の基礎知識・口腔内の付着物・沈着物（講義）	第1回	プロービング操作(相互実習)
第2回	身支度、NISSINマネキン組み立て（講義・実習）	第2回	SRPについて、キュレットスケーラー種類（講義）
第3回	う蝕・歯周病の基礎知識（講義）	第3回	キュレットスケーラー操作方法、ポジショニング（講義）
第4回	歯科衛生過程の進め方（講義）	第4回	キュレットスケーラー（マネキン実習）
第5回	探針・ミラーの役割、基本操作、術者ポジション、手指固定（講義・マネキン実習）	第5回	シャープニング（GCセミナー）
第6回	スケーリングについて（講義） シックルスケーラー操作(実習)	第6回	キュレットスケーラー（マネキン実習）
第7回	シックルスケーラーポジショニング 歯牙に人口歯石をつける（講義・実習）	第7回	超音波、エアスケーラー、エアフロー（講義）
第8回	シックルスケーラー操作、下顎前歯（マネキン実習）	第8回	歯面研磨、PMTC（講義）
第9回	シックルスケーラー操作、上顎前歯（マネキン実習）	第9回	SC・歯面研磨　相互実習①
第10回	シックルスケーラー操作復習（マネキン実習）	第10回	SC・歯面研磨　相互実習②
第11回	洗浄・貼薬/プロ―ビングについて（講義）	第11回	SC・歯面研磨　相互実習③
第12回	プロ―ビング操作（マネキン実習）	第12回	キュレットスケーラー操作復習(実習)
第13回	シックルスケーラー実技試験	第13回	キュレットスケーラー実技試験
第14回	前期 まとめ	第14回	まとめ
第15回	前期 定期試験	第15回	期末定期試験

シラバス

授業科目区分	専門科目	担当科目	歯科予防処置論 歯科予防処置法Ⅱ	単位数	6	選択必修	必修
				時間数	120		
担当教員	岡部　あゆ美			受講学科	歯科衛生学科		
				学　年	2年		

実務家教員としての経歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 歯科診療所　勤務（4年）
実務経験と授業	歯科衛生士の実務経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な口腔の健康状態を維持するための要因と、予防法についての知識を養う。

学期区分				
	前期	水曜日　1、2時限	講義室等	基礎実習室・実習室
	後期	木曜日　4時限／集中講義	授業形式	講義・実習

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・口腔の健康状態を維持するための要因と、予防可能な口腔疾患の種類、その原因と予防法について理解する。 ・歯科衛生過程の基本的考え方を学び、口腔保健を担う専門的職業人としての倫理的配慮や活動の在り方を理解する。	筆記試験・小テスト・身支度・提出物・授業態度・出席状況
授業概要	**教科書**
1　口腔疾患の予防原理について理解し、口腔領域の健康づくりの基本的な知識を習得する。 2　口腔疾患予防の一連の流れを正確に、且つ安全に行えるよう基本的な技術、知識を習得する。 3　口腔保健の向上のための介入方法を考え、個々の対象者に応用できる問題解決能力を身につける。	最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 最新歯科衛生士教本「歯周病学」 「歯科衛生士のための齲蝕予防処置法」 歯科衛生士サブテキスト「歯科衛生過程HAND BOOK」

履修上の注意事項	・定期試験受験資格はすべての実習に出席した者のみとする。

授業の計画

〈前期〉		〈後期〉	
第1回	口腔内写真について(講義)	第1回	エックス線撮影読み取り　復習①②
第2回	口腔内写真（5枚法）撮影（実習）	第2回	う蝕活動性試験(講義)③④
第3回	エックス線読み取り①(講義)	第3回	う蝕活動性試験(講義)⑤⑥
第4回	エックス線読み取り②(講義)	第4回	歯周病治療⑦⑧
第5回	う蝕予防処置概論／フッ化物とは(講義)	第5回	SPTとメインテナンス(講義)⑨⑩
第6回	フッ化物歯面塗布/フッ化物洗口法(講義)	第6回	歯周外科治療(講義)⑪⑫
第7回	フッ化物歯面塗布/フッ化物洗口法　相互実習	第7回	スケーリング復習⑬⑭
第8回	小窩裂溝填塞法/フッ化ジアンミン銀(講義) 小窩裂溝填塞法　マネキン実習	第8回	スケーリング復習
第9回	偶発事故（講義）患者実習流れ	第9回	歯面研磨　相互実習
第10回	プロービング・スケーリング・PTC実技復習① （シックル、超音波、エアー）	第10回	歯面研磨　相互実習
第11回	プロービング・スケーリング・PTC実技復習② （シックル、超音波、エアー）	第11回	歯科衛生過程
第12回	プロービング・スケーリング・PTC実技復習③ （シックル、超音波、エアー）	第12回	演習
第13回	患者実習①	第13回	演習
第14回	患者実習②	第14回	演習
第15回	患者実習③	第15回	まとめ

シラバス

授業科目区分	専門科目	担当科目	歯科予防処置論 歯科予防処置法Ⅲ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	岡部　あゆ美			受講学科	歯科衛生学科		
				学　年	3年		
実務家教員としての経歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 歯科診療所　勤務（4年）						
実務経験と授業	歯科衛生士の実務経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な臨床で対応できる知識と技術を養う。						
学期区分	前期	集中講義		講義室等	基礎実習室		
				授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・歯科予防処置の知識を再確認し、臨床で対応できるよう技術・知識・態度を修得する。	・筆記試験・小テスト・身支度・提出物・授業態度・出席状況
授業概要	**教科書**
1　口腔保健管理のためのプログラムを提供できるように、歯科予防処置の意義、目的を十分に理解する。 2　歯科予防処置全般について理解を深めるとともに、安全に配慮した行動を習得する。	最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 最新歯科衛生士教本「歯周病学」 「歯科衛生士のための齲蝕予防処置法」 歯科衛生士サブテキスト「歯科衛生過程HAND BOOK」

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前期〉

第1回	総論・予防レベル
第2回	総論・予防レベル
第3回	基礎知識・口腔内沈着物・付着物
第4回	基礎知識・口腔内沈着物・付着物
第5回	歯周組織・検査
第6回	歯周組織・検査
第7回	SRP・器具メンテナンス
第8回	SRP・器具メンテナンス
第9回	う蝕予防処置
第10回	フッ化物応用
第11回	フッ化物応用
第12回	う蝕活動性試験
第13回	歯周治療(歯周基本治療・歯周外科治療・SPT・メインテナンス)
第14回	歯科衛生過程
第15回	定期試験

シラバス

授業科目区分	専門分野	担当科目	歯科保健指導論 歯科保健指導Ⅰ	単位数	3	選択必修	必修
				時間数	60		
担当教員	宮本　佑美			受講学科	歯科衛生士学科		
				学　年	1年		
実務家教員としての経歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。						
	歯科診療所　勤務(5年)						
実務経験と授業	歯科衛生士の実務経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な歯科保健行動の変容を支援するため必要な知識・技術・態度を知識と技術を養う。						
学期区分	前期	火曜日　2時限		講義室等	普通教室①・基礎実習室・臨床実習室		
	後期	水曜日　1時限		授業形式	講義・実習		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・歯科保健指導の方法および歯科衛生教育法の基礎的技術について習得し患者に応じた歯科保健行動の変容を支援するため必要な知識・技術・態度を理解する	・筆記試験 ・出席・授業態度 ・課題の到達度・提出度
授業概要	教科書
・歯科保健指導の基礎 ・口腔機能、初期病変の理解 ・口腔清掃指導の基礎および口腔清掃指導法の理解 ・口腔衛生状態の評価法	最新歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論
	参考書
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 歯肉を診る・歯肉を読む

履修上の注意事項	家庭学習をしっかりと行う 前期試験100点・後期試験100点の合計200点満点で採点。(120点以上を合格とする)

授業の計画

〈前期〉		〈後期〉		
第1回	総説・概要	第1回	歯磨剤・洗口剤	
第2回	歯科保健指導と保健教育・保健行動	第2回	セミナー(歯磨剤・洗口剤について:㈱GSK)	
第3回	口腔の基礎知識1	第3回	相互実習(TBI)	
第4回	口腔の基礎知識2	第4回	口腔内観察に関する指数1	PCR
第5回	歯科疾患の発生機序・予防方法	第5回	口腔内観察に関する指数2	PCR実習
第6回	口腔清掃の基礎・分類1	第6回	口腔内観察に関する指数3	OHI/OHI-S
第7回	口腔清掃の基礎・分類2	第7回	口腔内観察に関する指数4	PHP/PII
第8回	口腔清掃方法1	第8回	口腔内観察に関する指数5	PMA/PI/GI
第9回	口腔清掃方法2	第9回	口腔内観察に関する指数6	OHI/PMA実習
第10回	歯垢染色剤	第10回	口腔内観察に関する指数7	GB-Count/CPI
第11回	実習(口腔清掃方法・染め出しあり)	第11回	口腔内観察に関する指数8	DMF他
第12回	口腔清掃補助用具	第12回	う蝕活動性試験	
第13回	特別な要因がある場合の口腔清掃方法	第13回	実習(口腔内観察に関する指数・齲蝕活動性試験)	
第14回	ライフステージ別の口腔清掃指導法	第14回	実習(口腔内観察に関する指数・齲蝕活動性試験)	
第15回	実習(口腔清掃方法確認＋補助用具)	第15回	災害時の歯科保健	

シラバス

授業科目区分	専門分野	担当科目	歯科保健指導論 歯科保健指導Ⅱ	単位数	3	選択必修	必修
				時間数	60		
担当教員	宮本 佑美			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	2年		

実務家教員としての経歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 歯科診療所 勤務(5年)
実務経験と授業	歯科衛生士の実務経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な歯科保健指導の方法および歯科衛生教育法の基礎的技術を養う。

学期区分				
	前期	水曜日 3時限	講義室等	普通教室②・基礎実習室・臨床実習室
	後期	集中講義	授業形式	講義・実習

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・歯科保健指導の方法および歯科衛生教育法の基礎的技術について習得し患者に応じた歯科保健行動の変容を支援するため必要な知識・技術・態度を理解する。	・筆記試験 ・出席・授業態度 ・課題の到達度・提出度

授業概要		教科書
・口腔保健に関する情報と収集	・歯科衛生過程	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論
・対象把握・伝達方法(医療面接法)	・対象別指導法	最新歯科衛生士教本 高齢者歯科学 第2版
・生活習慣・リスクに応じた歯科保健	・高齢者歯科	参考書
・口腔衛生状態の評価法	・衛生教育	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 DHのための摂食嚥下リハビリテーション

履修上の注意事項	家庭学習をしっかりと行う。 前期試験100点・後期試験00点の合計200点満点で採点(120点以上を合格とする)。

授業の計画

〈前期〉		〈後期〉	
第1回	歯科衛生過程の基本	第1回	高齢者の生活機能の評価1
第2回	医療面接について	第2回	高齢者の生活機能の評価2
第3回	口腔情報収集についての知識	第3回	高齢者に対する口腔ケア1
第4回	相互実習(医療面接・TBI)	第4回	高齢者に対する口腔ケア2
第5回	健康と予防	第5回	相互実習(器質的口腔ケア)
第6回	歯科疾患と全身疾患	第6回	実習1(患者体験・疑似麻痺体験)
第7回	禁煙指導	第7回	実習2(患者体験・疑似麻痺体験)
第8回	補綴物装着後の継続管理・手法	第8回	集団に対する指導法
第9回	口臭について	第9回	衛生教育実習準備1
第10回	口腔内に関する指数(1年次復習)	第10回	衛生教育実習準備2
第11回	臨床における歯科保健指導の手順・手法1	第11回	衛生教育実習準備3
第12回	臨床における歯科保健指導の手順・手法2	第12回	衛生教育実習準備4
第13回	メンテナンスについて1	第13回	衛生教育実習準備5
第14回	メンテナンスについて2	第14回	衛生教育実習準備6
第15回	在宅訪問診療	第15回	衛生教育実習準備7

シラバス

授業科目区分	専門分野	担当科目	歯科保健指導論 歯科保健指導Ⅲ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	宮本 佑美			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	3年		
実務家教員としての経歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。						
	歯科診療所 勤務(5年)						
実務経験と授業	歯科衛生士の実務経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な歯科保健指導の方法および歯科衛生教育法の基礎的技術を養う。						
学期区分	前期	集中講義		講義室等	普通教室③		
	後期			授業形式	講義・実習		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・歯科保健指導の方法および歯科衛生教育法の基礎的技術について習得し患者に応じた歯科保健行動の変容を支援するため必要な知識・技術・態度を理解する。	・筆記試験 ・出席・授業態度 ・課題の到達度・提出度
授業概要	**教科書**
・ライフステージ別歯科保健指導 ・集団に対する指導法(衛生教育実習) ・口腔衛生状態の評価法	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 最新歯科衛生士教本 高齢者歯科学 第2版
	参考書
	最新歯科衛生士教本 保健生態学 第3版 DHのための摂食嚥下リハビリテーション 第2版

履修上の注意事項	・家庭学習をしっかりと行う。 ・衛生教育のオリエンテーションに向けて協力体制を整える。

授業の計画

〈前期〉

第1回	国家試験対策1
第2回	国家試験対策2
第3回	国家試験対策3
第4回	国家試験対策4
第5回	国家試験対策5
第6回	国家試験対策6
第7回	国家試験対策7
第8回	衛生教育実習準備8
第9回	衛生教育実習準備9
第10回	衛生教育実習準備10
第11回	衛生教育実習準備11
第12回	衛生教育実習準備12
第13回	衛生教育実習準備13
第14回	衛生教育実習準備14
第15回	衛生教育実習準備15

シラバス

授業科目 区分	専門科目	担当科目	歯科保健指導論 栄養指導	単位数 時間数	2 30	選択 必修	必修
担当教員	宮本　佑美			受講学科 学　年	歯科衛生士学科 2年		
実務家教員としての経歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 歯科診療所　勤務(5年)						
実務経験と授業	・歯科衛生士の実務経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な業界から、全身疾患予防・口腔疾患予防へのアプローチ法の知識を養う。						
学期区分	前期	金曜日　1時限		講義室等	普通教室②・基礎実習室		
	後期			授業形式	講義・実習		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・栄養摂取の手段となる「食べる」という行為と切り離すことのできない歯科業界から、全身疾患予防・口腔疾患予防へのアプローチ法を学ぶ。	筆記試験 出席・授業態度 課題の到達度・提出度
授業概要	教科書
歯科栄養指導の基礎 歯科と栄養の関わり 全身疾患・歯科疾患と栄養 ライフステージ別歯科栄養指導	最新衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論 最新衛生士教本　人体の構造と機能2　栄養と代謝
	参考書
	新選　食品成分表　三訂版

履修上の注意事項	・家庭学習をしっかりと行う

授業の計画

〈前期〉

第1回	食生活と健康
第2回	食生活改善の取り組み
第3回	食育基本法
第4回	食事摂取基準
第5回	食品と齲蝕誘発性
第6回	糖質・代用甘味料・齲蝕予防のための食品摂取法
第7回	咀嚼と食品
第8回	食べ物と健康
第9回	口腔機能発達
第10回	障害に応じた食物形態
第11回	ライフステージ別栄養指導1
第12回	ライフステージ別栄養指導2
第13回	味覚実習
第14回	確認テスト
第15回	確認テスト(解説)

シラバス

授業科目区分	専門分野	担当科目		歯科診療補助論 歯科診療補助法Ⅰ	単位数	6	選択必修	必修
					時間数	120		
担当教員	本山 晃代				受講学科	歯科衛生士学科		
					学 年	1年		
実務家教員としての経歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 歯科診療所 勤務(4年)							
実務経験と授業	歯科衛生士の実務経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な歯科診療の基本的知識と技術を養う。							
学期区分	前期	月曜日 3・4時限			講義室等	普通教室①・基礎実習室・実習室		
	後期	火曜日 1・2時限			授業形式	講義・実習		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・歯科診療の基本的な知識・態度及び考え方を身につける。 ・歯科診療を行うための器具や材料を理解し、取り扱い法を習得する。	・出席、筆記試験、実技試験、授業態度 総合的に見て評価する。
授業概要	**教科書**
・常に感染予防、医療安全に配慮し実習に臨むことができる。 ・印象材、合着材をはじめとした歯科材料の知識と技術を身につける。 ・共同動作、ラバーダム防湿法、印象採得など相互実習において技術が習得できる。	最新 歯科診療補助論 医歯薬出版
	参考書
	歯科衛生士のための歯科用語辞典 ポケットマニュアル第2版

履修上の注意事項	実習履修した者が、実技試験の受験資格を得られるものとする。実技試験不合格者は単位不認定とする。 筆記試験は6割以上の得点をもって合格とする。

授業の計画

〈前期〉		〈後期〉	
第1回	歯科診療補助の概念・歯科診療室の基礎知識 医療従事者としての身だしなみ	第1回	スタディモデル作製 相互実習 上顎
第2回	医療安全と感染予防対策・手指消毒	第2回	スタディモデル作製 相互実習 下顎
第3回	滅菌法・消毒法・医療廃棄物の取り扱い 歯科診療室の環境整備(清潔・不潔の別)	第3回	ラバーダム防湿法 基礎知識 マネキン実習
第4回	衛生材料作製 実習	第4回	ラバーダム防湿法 相互実習
第5回	アルジネート印象材の基礎知識・練和練習	第5回	隔壁・歯間分離 講義・マネキン実習
第6回	アルジネート印象材 練和・印象採得 マネキン実習 (回転トレー)	第6回	歯肉圧排、寒天・アルジネート連合印象 基礎知識 (歯肉圧排:マネキン実習)
第7回	アルジネート印象材 練和・印象採得 マネキン実習 (上下顎・全顎)	第7回	寒天・アルジネート連合印象採得・咬合採得 (マネキン実習:共同動作)
第8回	アルジネート印象材 練和実技試験	第8回	仮封材 基礎知識 テンポラリーストッピング操作 マネキン実習
第9回	共同動作の基本(講義、マネキン実習:バキューム操作・フォーハンド・器具の受け渡し)	第9回	酸化亜鉛ユージノールセメント・レジン系仮封材・ 水硬性仮封材 マネキン実習
第10回	共同動作 相互実習①(器具の洗浄方法・ポジショニング・ライティング・バキューム・3wayシリンジ操作・受け渡し)	第10回	合着材・接着材 基礎知識・練和実習 (グラスアイオノマーセメント・接着性レジンセメント)
第11回	共同動作 相互実習②(ポジショニング・ライティング・バキューム操作・4wayシリンジ操作(洗浄・乾燥)・受け渡し)	第11回	合着材・接着材 基礎知識・練和実習 (リン酸亜鉛セメント・カルボキシレートセメント(セメント除去))
第12回	共同動作実技試験	第12回	合着材・接着材・仮封材 実技試験
第13回	アルジネート印象採得 相互実習 下顎全額	第13回	放射線学 レントゲン実習 事前指導① デンタル・パノラマ撮影法 実習(現像方法確認)
第14回	アルジネート印象採得 相互実習 上顎全額	第14回	放射線学 レントゲン実習 事前指導② デンタル・パノラマ撮影法 実習
第15回	模型材料の取り扱い・模型作製の基礎知識 (マネキン実習:印象採得・石膏注入)	第15回	回転切削器具 講義・スケッチ

シラバス

授業科目区分	専門分野	担当科目	歯科診療補助論 歯科診療補助法Ⅱ	単位数	6	選択必修	必修
				時間数	120		
担当教員	本山　晃代			受講学科	歯科衛生士学科		
				学　年	2年		

実務家教員としての経歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 歯科診療所　勤務(4年)
実務経験と授業	歯科衛生士の実務経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な専門性の高い歯科診療補助法の知識と技術を養う。

学期区分				
	前期	火曜日　3・4時限	講義室等	普通教室②・基礎実習室・実習室
	後期	木曜日　1・2時限	授業形式	講義・実習

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・様々なライフステージにおける、歯科医療に対応するために専門性の高い歯科診療補助法の知識と技術および態度を理解する。	・出欠席、筆記試験、実技試験、授業態度総合的に見て評価する。

授業概要	教科書
・各分野における術式・診療の流れに必要な器材・器具の用途を理解し、歯科診補助能力を身につける。 ・歯科材料の種類と性質を理解できる。 ・様々な疾患や身体の状態をふまえ、患者への適切な対応ができる。	最新　歯科診療補助論　医歯薬出版 最新　歯科補綴　保存修復・歯内療法　口腔外科・歯科麻酔　小児歯科　高齢者歯科　臨床検査 参考書

履修上の注意事項	・すべての実習を行った者のみ、実技試験受験資格を得られるものとする。実技試験不合格者は単位不認定とする。 ・筆記試験は6割以上の得点をもって合格とする。

授業の計画

〈前期〉		〈後期〉	
第1回	コンポジットレジン修復法　講義・マネキン実習	第1回	共同動作　相互実習
第2回	レジン添加型グラスアイオノマーセメント修復法 講義・マネキン実習	第2回	直接修復法(CR・グラスアイオノマーセメント) 術式器具セッティング・受け渡し
第3回	間接法修復(メタルインレー)　術式・実習	第3回	間接法修復　術式確認　アルジネート印象採得 相互実習
第4回	保存修復における器具セッティング　実技試験	第4回	麻酔抜髄・根管充填　術式確認・模型実習
第5回	歯内療法における使用器具および薬剤の基礎知識、麻酔抜髄における歯科診療補助・綿栓作製実習	第5回	支台築造(講義)　コア連合印象採得実習
第6回	根管治療・根管充填　マネキン相互実習	第6回	テンポラリークラウン作製実習　臼歯部　筆積み法 (セメント除去)
第7回	ホワイトニング　術式・使用器具 特別講義「インプラント概論」	第7回	口腔外科器具スケッチ
第8回	局所麻酔・替刃メス・縫合における器材の準備と片づけ (滅菌グローブ・ガウンの取り扱い)、止血処置法の理解	第8回	嚢胞摘出術・歯根端切除術・歯槽骨整形術 術式・使用器具・術後指導
第9回	普通抜歯・埋伏抜歯　術式 使用器具　抜歯鉗子スケッチ	第9回	小帯切除術・インプラント手術 術式・使用器具、術後指導
第10回	GC材料セミナー(シリコン印象材・セメント練和)	第10回	可撤式矯正装置・固定式矯正装置の補助と指導
第11回	GC材料セミナー(シリコン印象材・セメント練和)	第11回	X線撮影における歯科診療補助
第12回	クラウン・ブリッジ(生活歯)治療　術式　使用器具 装着後の患者指導	第12回	小児歯科診療における診療補助(乳歯冠修復)
第13回	全部床義歯・部分床義歯治療　術式　使用器具 装着後の患者指導	第13回	臨床検査・検体検査・救急救命処置
第14回	術前検査の補助 (臨床検査・救急蘇生法実習の事前学習)	第14回	全身疾患を有する患者への対応
第15回	矯正歯科用器具・材料の取り扱い、使用方法	第15回	歯科材料　総復習

シラバス

授業科目区分	専門科目	担当科目	歯科診療補助論 歯科診療補助法Ⅲ	単位数 時間数	2 30	選択必修	必修
担当教員	本山 晃代			受講学科 学 年	歯科衛生士学科 3年		
実務家教員としての経歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 歯科診療所 勤務(4年)						
実務経験と授業	歯科衛生士の実務経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な専門性の高い歯科診療補助法の知識と技術を養う。						
学期区分	前期	集中講義		講義室等	普通教室③		
	後期			授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・歯科臨床の場でチーム医療の実践に必要な態度・知識・技術を身につける。 ・ 1・2年次で学習した内容を確認し、卒業後の臨床において即戦力となれるよう、理解を深める。	・出欠席、筆記試験、授業態度 総合的に見て評価する。
授業概要	**教科書**
・歯科医療の高度化に伴い、歯科衛生士としての専門性を発揮できる知識を修得する。	最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論、歯科補綴、歯科矯正、小児歯科、保存修復・歯内療法、口腔外科・歯科麻酔、歯科材料
	参考書
	年度別 歯科衛生士国家試験問題集

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前期〉

第1回	総論・滅菌、消毒・共同動作について
第2回	模型材料・合着、接着材について
第3回	印象材・歯冠修復材・仮封材
第4回	保存修復における歯科診療補助
第5回	補綴治療における歯科診療補助
第6回	口腔外科における歯科診療補助
第7回	矯正治療における歯科診療補助
第8回	小児歯科における歯科診療補助
第9回	中間試験
第10回	高齢者治療における歯科診療補助
第11回	エックス線写真撮影における歯科診療補助
第12回	臨床検査・救急救命処置
第13回	障害者歯科における歯科診療補助
第14回	まとめ
第15回	筆記試験

シラバス

授業科目区分	専門分野	担当科目	歯科診療補助論 歯科材料学	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	西川 毅			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		

実務家教員としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の通り実務経験がある。
	歯科大学 歯学部 高齢者歯科 勤務(2年)
	歯科診療所 勤務(2年)
	歯科医院開業(18年)
実務経験と授業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な歯科材料の理工学的性質および取り扱いを習得する。

学期区分				
前期		講義室等	普通教室①
後期	木曜日 1時限	授業形式	講義

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・歯科材料の理工学的性質および取り扱いを習得し、将来、頻繁に取り扱う歯科材料に慣れ親しんでもらう。	・出席状況・授業態度 ・確認テスト・レポート課題 ・単位認定試験
授業概要	**教科書**
・教科書を中心に講義を行うが、歯科材料に関わる動画上映も行う。 ・確認テストで授業内容のポイントを復習してもらう。 ・総復習において、国家試験問題のレベルを確認し、知識を深めてもらう。	最新歯科衛生士教本 歯科材料 医歯薬出版株式会社 「歯科材料学の資料第4版」(西川作成)
	参考書
	国家試験問題集(西川作成)

履修上の注意事項	・毎回、教科書および「歯科材料学の資料第4版」を持参すること。

授業の計画

〈後期〉

第1回	歯科材料の基礎知識(種類、所要性質、基本的性質、練和、接着、取り扱い)
第2回	成型修復材1(グラスアイオノマーセメント)、確認テスト①
第3回	成型修復用材2(コンポジットレジン)、確認テスト②
第4回	印象材1(アルジネート印象材、寒天印象材)、確認テスト③
第5回	印象材2(ゴム質印象材、酸化亜鉛ユージノール印象材、モデリングコンパウンド)、確認テスト④
第6回	模型用材料(普通石膏、硬質石膏、、超硬質石膏)、確認テスト⑤
第7回	合着材・接着材1(合着財)、確認テスト⑥
第8回	合着材・接着材2(接着剤)、確認テスト⑦
第9回	暫間修復材・仮着用セメント、確認テスト⑧
第10回	仮封材、確認テスト⑨、レポート課題通知
第11回	その他の歯科材料1(ワックス、金属、セラミックス)、確認テスト⑩
第12回	その他の歯科材料2(義歯用材料、インプラント用材料)、確認テスト⑪
第13回	歯科衛生にかかわる材料(歯面研磨材、小窩裂溝填塞材、口腔清掃用具)、確認テスト⑫、レポート提出
第14回	総復習1(「歯科材料学の資料」を中心に復習)、国家試験問題集配布
第15回	総復習2(国家試験問題集を中心に復習)

シラバス

授業科目区分	専門分野	担当科目	歯科診療補助論 臨床検査・救急蘇生法	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	横林 敏夫			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	1年		

実務家教員としての経歴	歯科医師の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 大学病院　歯科口腔外科　勤務(11年) 総合病院　歯科口腔外科　勤務(31年)
実務経験と授業	歯科医師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な歯科麻酔の基本的知識と、救急措置・心肺蘇生の技術を養う。

学期区分				
前期	月曜日　3時限	講義室等	普通教室②
後期		授業形式	講義

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・歯科衛生士に必要な臨床検査基準値を理解する。 ・歯科麻酔の基本的知識を学び、救急措置・心肺蘇生の方法を実践できるようにする。	・出席 ・中間試験 ・定期試験
授業概要	**教科書**
・臨床検査の基本的知識と病気を持つ患者に対応する上で必要な最低限の態度と技能について、講義形式で学ぶ。 ・歯科麻酔及び救急措置の実習を行う。	最新歯科衛生士教本　口腔外科・歯科麻酔 最新歯科衛生士教本　臨床検査法 全身管理と救急蘇生

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前期〉

第1回	臨床検査とは、画像検査
第2回	生体検査　(生理機能検査)①
第3回	生体検査　(生理機能検査)②
第4回	検体検査　①
第5回	検体検査　②
第6回	検体検査　③
第7回	口腔領域の臨床検査、摂食嚥下関連の検査
第8回	歯科麻酔　局所麻酔
第9回	歯科麻酔　局所麻酔　精神鎮静法
第10回	歯科麻酔　全身麻酔
第11回	歯科治療時における全身偶発症①
第12回	歯科治療時における全身偶発症②
第13回	救急蘇生法
第14回	実習
第15回	実習

シラバス

授業科目区分	選択必修分野	担当科目	総合科目 看護学	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	田中 文子			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	2年		
実務家教員としての経歴	看護師の資格を有し、以下の通り実務経験がある。						
	病院 勤務(6年)						
	看護師養成校 専任教員(3年)						
	高齢者福祉施設 勤務(14年)						
実務経験と授業	・看護師の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な現代社会のニーズに応えられる看護上の知識と技術を養う。						
学期区分	前期	金曜日 4時限		講義室等	普通教室②		
	後期			授業形式	講義・演習		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
・看護の本質を理解し、現代社会のニーズに応えられる看護上の知識、技術を修得する。				定期試験			
授業概要				教科書			
・テキストによる講義と演習 ・バイタル測定の実習				歯科衛生士のための看護学大意 医歯薬出版株式会社			
				参考書			
履修上の注意事項							

授業の計画

〈前期〉

第1回	国民衛生の動向・健康とは何か…健康の定義を考える
第2回	看護とは… 看護の始まりと変遷
第3回	接遇とコミュニケーションの重要性を知る 演習
第4回	歯科衛生士が知っておくべき看護技術 観察の重要性
第5回	バイタルサインとは何か
第6回	バイタルサインの測定法 演習
第7回	患者への支援 認知症を知ろう
第8回	患者の安全と安楽
第9回	摂食の意味と重要性
第10回	与薬の種類とその注意事項
第11回	記録の重要性と意味
第12回	救急時の看護
第13回	口腔ケアの重要性について
第14回	感染症対策
第15回	地域医療活動における歯科衛生士の仕事

シラバス

授業科目区分	選択必修	担当科目	総合科目 リハビリテーション論	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	小寺 和伸			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	2年		
実務家教員としての経歴	理学療法士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。						
	病院、介護老人保健施設、訪問リハビリテーション(計12年)						
	デイサービス管理業務(計3年)						
実務経験と授業	理学療法士の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要なリハビリテーションの基本知識と技術を養う。						
学期区分	前期	木曜日 1、2時限(隔週)		講義室等	普通教室②		
	後期			授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・リハビリテーションの視点を学び、歯科衛生士として何ができるのかを知る(考える)。	・出席状況 ・授業態度 ・レポート課題 ・単位認定試験
	教科書
	リハビリテーション総論 改訂第2版 診断と治療社
授業概要	参考書
講義と実技	最新歯科衛生士教本 高齢者歯科 第2版 医歯薬出版株式会社

履修上の注意事項	動きやすい服装(パンツスタイル)

授業の計画

〈前期〉

第1回	リハビリテーション概論1
第2回	リハビリテーション概論2
第3回	実技 (身体の動かし方)
第4回	実技 (車椅子、移乗)
第5回	障害別リハビリテーション
第6回	疾患別リハビリテーション
第7回	第1～6回の復習等
第8回	実技 (リハビリ体験)
第9回	ステージ別リハビリ
第10回	歯科衛生士とリハビリ
第11回	実技 (身体介助方法)
第12回	フレイル、筋トレ、栄養
第13回	グループワーク
第14回	発表等
第15回	まとめ

シラバス

授業科目区分	選択必修	担当科目	総合科目 口腔機能・摂食機能訓練法	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	望月 崇司			受講学科	歯科衛生士学科		
				学 年	2年		
実務家教員としての経歴	言語聴覚士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。						
	回復期リハビリテーション病院で5年、同病院一般病棟で2年						
	長野医療衛生専門学校 言語聴覚士学科 教務として5年、上記病院非常勤5年(週1)						
	日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士						
実務経験と授業	言語聴覚士の経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な口腔機能および摂食機能訓練法の知識を養う。						
学期区分	前期	月曜日 4時限		講義室等	3号館 普通教室		
	後期			授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・摂食・嚥下障害の基礎的な身体構造と機能を学び身につける。 ・摂食・嚥下リハビリテーションのチームアプローチを理解する。 ・嚥下評価や訓練について理解する。 ・口腔アセスメントの重要性と摂食機能療法を学び、歯科衛生士の役割となる嚥下間接・直接訓練について理解する。	筆記試験、出席、授業態度、課題の到達度において総合的に評価する。
	教科書
	歯科衛生士のための摂食・嚥下リハビリテーション 医歯薬出版株式会社
授業概要	参考書
講義・演習	

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前期〉

第1回	リハビリテーションと摂食嚥下リハビリテーション・リハビリテーション制度について
第2回	摂食嚥下に関わる構造
第3回	摂食嚥下に関わる機能
第4回	摂食嚥下機能の発達と老嚥について
第5回	摂食嚥下機能評価について ースクリーニングテストー
第6回	摂食嚥下機能評価について ー嚥下造影と嚥下内視鏡①ー
第7回	摂食嚥下機能評価について ー嚥下造影と嚥下内視鏡②ー
第8回	栄養管理と嚥下調整食分類2013
第9回	摂食嚥下機能のリスクマネジメント
第10回	老年期にみられる摂食嚥下機能の特徴と対応について
第11回	摂食嚥下障害のリハビリテーションについて ー間接訓練ー
第12回	摂食嚥下障害のリハビリテーションについて ー直接訓練ー
第13回	歯科衛生士と摂食嚥下障害
第14回	国家試験対策①
第15回	国家試験対策②

シラバス

授業科目区分	選択必修分野	担当科目	総合科目 医療保険事務	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	岡部 あゆ美			受講学科	歯科衛生学科		
				学 年	1年		

実務家教員としての経歴	歯科衛生士の資格を有し、以下の通り実務経験がある。 歯科診療所 勤務(4年)
実務経験と授業	歯科衛生士の実務経験を活かし、将来歯科衛生士を目指す学生たちに必要な保険請求のしくみについて知識を養う。

学期区分				
	前期		講義室等	普通教室①
	後期	月曜日 4時限	授業形式	講義

授業のねらい、目標	成績評価の方法
保険請求のしくみを学ぶ。	定期試験・小テスト・提出物・授業態度・出席状況
授業概要	**教科書**
1 社会保険制度について理解し、医療保障制度を用いた保険請求のしくみを理解する。 2 診療録作成・読み取り・診療報酬請求の概要を理解する。	ﾃﾞﾝﾀﾙｽﾀｯﾌのための歯科保健診療ﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸ
	参考書
	新人歯科衛生士・ﾃﾞﾝﾀﾙｽﾀｯﾌ ﾎﾟｹｯﾄﾏﾆｭｱﾙ

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前 期〉

第1回	医療保険事務概要
第2回	コミュニケーションスキルアップセミナー①
第3回	コミュニケーションスキルアップセミナー②
第4回	コミュニケーションスキルアップセミナー③
第5回	口腔内審査
第6回	医療保障
第7回	各種保険
第8回	傷病名・略称
第9回	1号カルテ転記
第10回	保険請求
第11回	ヨシダ レセコンセミナー①
第12回	ヨシダ レセコンセミナー②
第13回	まとめ
第14回	レセプト名・略語クイズ
第15回	定期試験